令和４年度　東京都北区立堀船中学校

堀船中だより

令和４年 10 月　第７号

校長　阿久津　光生
〒114-0004
東京都北区堀船 2-23-20
Tel 03-3911-8817

心身ともに健康にして、国際的視野に立って社会に貢献し、自立した人を育成する。

教育目標　**自ら**学び　**自ら**考え　**自ら**行動できる生徒

《堀船地区納涼盆踊り大会で初舞台 大江戸ダンス隊、見事に踊りきりました！》

８月 27 日（土）の堀船地区納涼盆踊り大会で、堀船中大江戸ダンス隊が初舞台を踏みました。17 時より開催された盆踊り大会で、大江戸ダンス隊は、「丘を越えて」「鉄道唱歌」の２曲を見事に踊りきりました。町会の皆さま、在校生、卒業生、保護者の皆さま等、大勢の方から多くの応援をいただきました。大江戸ダンス隊の生徒もその声援に応えようと一生懸命頑張って、とっても素敵なダンスができました。

堀船中の大江戸ダンスは、コロナ禍によって３年間のブランクが生じ、その伝統が途絶えかけていました。しかし今回、大江戸ダンスを復活させて地域の皆さまにもご披露しようと有志が集まり、卒業生の鷹野先生のご指導の下、ダンス隊メンバーは、夏休み中の朝のレッスンやタブレット動画で踊りを覚えるべく一生懸命に頑張ってくれました。改めて、生徒のみなさんの努力に心より感謝いたします。また、以前は女子生徒がほとんどでしたが、今年は男子生徒も率先して参加してくれたことで、堀中生みんなでつくりあげた素晴らしいダンスになりました。PTA の役員の皆さまにおかれましては、夜遅くまで盆踊り大会の運営にあたってくださり、本当にありがとうございました。PTA の皆さまと地域の皆さまが、堀船中学校を温かく応援してくださっていることを深く感じた一日となりました。

《栄町祭礼　ふれあい広場　会場設営ボランティア 36 名 ・大江戸ダンス隊９名・吹奏楽部 11 名　計 56 名　みんな頑張りました》

９月 17 日（土）、栄町祭礼　ふれあい広場が、栄町ふれあい公園で行われました。朝 8 時半に 36 名の生徒のみなさんが栄町ふれあい公園に集まり、会場設営ボランティアを行ってくれました。今回は、生徒会役員が、生徒会の自治活動として地域ボランティアの呼びかけを行ってくれました。それに応えて多くの生徒のみなさんが快く参加してくれることになり、大変ありがたく思います。地域のために貢献しようとするその心意気が本当に立派だと、改めて感じました。

その後、11 時 40 分には堀船中学校の生徒による「大江戸ダンス」、12 時 10 分には「吹奏楽演奏」が行われました。３年間のコロナ禍によって、大江戸ダンスのメンバーも、吹奏楽部の生徒も、地域の皆さまの前で披露するのは今年度が初めてです。勝手を知っている生徒が誰も存在しない中、コロナ禍以前のように、またはそれ以上に、地域の皆さまに楽しんでもらえるよう一生懸命頑張ってくれました。三密を避け、さまざまな制限のある中での練習は簡単ではありませんでしたが、そんな環境の中でも、ベストを尽くそうと努力して参りました。

最後に、栄町祭礼ふれあい広場が無事行われたことにお祝い申し上げますとともに、栄町親和会の皆さまのお計らいによって、生徒たちの地域での活躍の場を設けられたことに、改めて感謝申し上げます。

《よい歯の表彰》

１年生　佐藤（有）さん・佐藤（快）さん・城野さん・佐藤（哉）　さん
２年生　藤井さん・松本さん・池森さん・木村（綺）　さん
３年生　石田さん・渡邉（由）　さん

よい歯の表彰にあたって清水先生からお話があったように、今年の歯科健診では堀船中の全校生徒の 94％の人が『むし歯なし』または『治療済み』の人でした。本当に素晴らしい結果です。

北里柴三郎の歩んだ道（8）～文部省移管事件～

北里の伝染病研究所は、世界最新の免疫血清治療を実践し、極めて高い完治率を誇りました。そのため、全国から多くの感染症患者が伝染病院研究所に押し寄せました。日本政府は、目覚ましい治療実績を挙げる伝染病研究所のより一層の発展に向けて、1899（明治 32）年に伝染病研究所を私立から国立に移管させました。伝染病研究所は、北里を所長に置いたまま、内務省が所管する国立の研究機関に移行しました。そもそも福沢諭吉が北里に研究の場を提供するために創始し、1892（明治 25）年に大日本私立衛生会の附属機関として発足した伝染病研究所でしたが、当初は伝染病の病原菌の探索や治療方法の研究が主な業務でした。その後、1894（明治 27）年に芝区芝公園から芝区愛宕町に移転し、それを機に国から補助金が支給されるようになると、伝染病の探索や治療方法の研究の他に、免疫血清の製造や伝染病の予防・消毒・治療・材料の検査などの講習業務も担当するようになりました。

伝染病研究所が順調に発展していく一方で、内務省に移管されて 2 年後の 1901（明治 34）年、北里に悲しい知らせが届きます。私財を投じて北里を支援し続けた最大の恩人の福沢が脳溢血を再発し、66 歳で他界したのです。翌年には、常に北里の後援者であった長与専斎が、心臓弁膜症によって福沢を追うように急逝します。享年 64 歳でした。恩人の福沢と後援者の長与を相次いで亡くして悲しみに暮れる北里でしたが、後年にはさらなる苦難が待っていました。

港区白金台 4 丁目に移転拡張された
伝染病研究所（現東京大学医科学研究所）
【提供】学校法人北里研究所
北里柴三郎記念室

1902（明治 39）年、手狭になってきた愛宕町の伝染病研究所を、芝区白金台町 1（現在の港区白金台 4）に移転拡張することになりました。白金台の 1 万 9,000 坪余りの広大な敷地には、車寄せのある二階建て煉瓦造りの本館、その奥に病室、採菌室などの 2 号館が並び建ちました。この新築移転から 8 年後に、事件が起こります。1914（大正 3）年 4 月に第二次大隈内閣が誕生すると、そのわずか 3 ヶ月後に第一次世界大戦が勃発しました。大隈内閣は、この有事に乗じて、「文政統一、行政整理」という名目のもと、伝染病研究所の文部省への移管と、東京帝国大学への組み入れを計画しました。そして、伝染病研究所を創設以来 22 年もの長きにわたり牽引し続けてきた所長である北里に一言の相談もないまま、内務省所管から文部省に移管することを閣議決定してしまったのです。もともと伝染病研究所は、福沢の土地や森村市左衛門の寄付など、北里の能力と熱意に感銘を受けた民間人による献身的な支援によって日本で最初に誕生した私設の研究所です。それが、文部省の所管となり、東京帝国大学医科大学の附属機関に組み入れられてしまうのですから、北里の驚きとショックは計り知れませんでした。

伝染病研究所の文部省移管は、医学会を二分する大事件となりました。この頃の北里は、全国の医師会の主導的役割を担い、多くの医師の支持を集めるとともに、政友会（総裁・原敬）と近しい間柄にありました。そのため、「大隈首相が、最大野党である政友会の支持基盤の弱体化を謀る目的で、伝染病研究所から北里所長を追い落としたのではないか」「東京帝国大学医科大学青山学長の策謀に手を貸したのではないか」と国民から非難の声が上がるほどでした。このあまりにも横暴なやり方に北里は納得できず、研究所を辞職しました。北里、61 歳の時の出来事でした。

白金三光町に創設された北里研究所
【提供】学校法人北里研究所
北里柴三郎記念室

北里が辞表を提出した翌日には、北里を慕い続けてきた所員一同も辞意を表明します。北里の退所によって、伝染病研究所はその歴史に幕を閉じるかのように思われました。しかし、思わぬところから救世主が現れます。それは、養生園の事務長をしている田端重晟という人でした。田端は、養生園の運営によって 30 万円（現在の約 30 億円に相当）ほどの資金があることを北里に報告します。田端は亡き福沢が推薦した人物でした。世事に疎い学者集団を心配して、経理に強い田端を送り込んでいた福沢の心遣いが、伝染病研究所の窮地を救ったのです。田端が蓄えていた資金をもとに、北里は、土筆ヶ岡養生園に隣接する芝区白金三光町（現在の港区白金 5-9-1）におよそ 2,500 坪の土地を得て、北里研究所を設立しました。北里の師のロベルト・コッホの誕生日に当たる 1915（大正 4）年 12 月 11 日、開所式が盛大に挙行されました。開所の後、田端による奇跡的な財源確保や、北里の個人名義の資産の取り崩しが明らかになります。すると、多くの国民から、政府に理不尽な仕打ちを受けた北里への同情の声が上がり、多額の募金が寄せられたのです。